



ヤング下関マリナーズ

今年3月、ヤングリーグ春季大会で準優勝。独自のチームづくりの中で、選手たちは野球の技術だけでなく、人としても成長。次の目標はもちろん、日本一。

技術よりも先に、
人間をつくる

あえて置かない
固定のキャプテン

中学生硬式野球チーム・ヤング下関マリナーズを率いる上本健太監督。技術より先人間力を育てるというチームづくりへの一貫した信念があります。その考えが表れているのが、日替わりのキャプテン制です。チームには固定のキャプテンを置かず、3年生が順番に練習を仕切ります。練習メニューの確認から円陣の声掛けまで、その日のキャプテンが担っているのです。きっかけは、以前チームを率いていたキャプテンが一人で抱え込んでいた姿を見たこ



▶選手たちから慕われる上本監督。監督に憧れて入団を決める選手も多い。

目指すのは、常勝より
常に応援されるチーム

とでした。「責任感が強い子だったんですが、結局みんなが頼り過ぎて、その子だけが悩んでいました。それってどうなんやろうって思ってた」と上本監督。「みんなにリーダーになってほしい。キャプテンを決めてしまうと、どうしても人任せな子が出てきてしまう」けれども大会では、試合前のもろもろを取り仕切る役割が必要です。そこで試合前には選手全員の投票でキャプテンを決めます。「仲間から選ばれるには、人に優しくして、人前で言いたいことが言えるようにならないといけない」と上本監督は言います。

「力のあるチームが必ず勝つわけじゃない。でも、粘り強いこと、応援されることは、日々の積み重ねで定着させることができる」と上本監督。「強いね」と言われるより、「素晴らしいね」「応援したくなるね」と言われるチームを目指しています。技術より人間力を大切にすること姿勢は、選



Linked Instagram インスタグラム

市報×インスタグラム連動企画
フォロワーの皆さんが投稿した下関
の魅力が伝わる写真をご紹介します



♡ 👁 📌 @ma3to4_さん



♡ 👁 📌 @y.ogiiiさん



♡ 👁 📌 @akiko_4leaf_cloverさん

(上から)火の山、角島灯台、一の俣桜公園

Editor's note

◆火の山へ取材。私は幼い頃、火の山の近くに住んでいました。昔は、山頂と麓にアスレチックがありました。40代50代の方、覚えてますか。特にあの難易度が高い山頂のアスレチックに熱狂した方、高い所に1人で登って降りられなくなって泣いた方。家族や友達と過ごした火の山での大切な思い出。今、火の山は新しく生まれ変わっています。ぜひ、一度遊びに行ってください。(き)

編集後記

▶ヤングリーグ春季大会で優秀選手賞を受賞した渡部結斗選手。「普段から家でも練習でもバットは振っているので、その結果が実ったのかなと思います」



◀技術的な「ナイスプレー」だけでなく、日ごろの行動や人柄も大切にする「グッドプレー」を目指し、練習に励む選手たち。

▶歴代の横断幕。学年ごとの特徴や目標に合わせ、上本監督が毎年スローガンを考え、自らデザインを手掛けている。



掲げたスローガン BE LEGEND

今年のチームスローガンは

手たちにも伝わっています。今大会でキャプテンに選ばれた3年生の宮地健太選手は、「チームをまとめる経験を重ねるうちに積極的に人前に立てるようになった」と話します。保護者からも「入団してから性格が変わり、野球だけでなく学校などの日常生活でも自分から積極的に発言できるようになりました」という声が上がっています。グラウンドでの経験は、野球の技術だけでなく、子どもたちの成長にもつながっているようです。

「BE LEGEND」。BEはBELIEVE(信じる)、LEGはLEGACY(受け継ぐ)、LEGENDは伝説、ENDは決着。仲間を信じ、先輩たちが築いた歴史を受け継ぎ、伝説的な1年にする。そして目指し続けてきた日本一によいよ決着をつける覚悟が込められています。

夏のヤングリーグ選手権大会で優勝し、各リーグ王者が集うエイジエックカップで日本一を取る。それが今年のチームの目標です。「BE LEGEND」のスローガンの下、彼らの挑戦は続きます。



@SHIMONOSEKI_MARINERS